

とうせいすいえん
陶製水煙

種 別	小松市指定文化財 考古資料
指定年月日	昭和 60 年 11 月 1 日
所 在 地	小松市立博物館

昭和 57 年（1982）に小松市戸津町の戸津 31 号窯跡から出土したものである。ほぼ完形に近く、高さ 69.7 センチメートル、幅 50.5 センチメートルで、先端には直径 1 ミリメートルの孔が穿たれている。4 枚ある羽根は厚さ 3.9 センチメートルで、1 枚に 10 箇所の透かし孔が施される。また上部には 3 本の突起があり、火炎の意匠とみられる。

水煙とは、寺院の塔の最上部につけられる相輪の一部をなすものである。青銅製のものが一般的で、本資料のような須恵器窯で作られた焼きものの水煙は他に例を見ない。

本資料が出土した戸津 31 号窯は、北陸最大の古代窯跡群である南加賀古窯跡群に属し、年代は 10 世紀代と考えられている。またこの窯からは、水煙の他にも相輪の一部の、宝輪^{ほうりん} 7 点と請花^{うけばな} 4 点が出土しており、古代の仏教遺物として重要なものである。

また水煙は、現在の小松市内に所在したと推定される、加賀国分寺へ供給するために製作されたと考えられている。よって、加賀国府と窯業生産の関係を知る上でも貴重な資料といえる。

